

イタリヤ使節を送る

① 日出る紅、東運をあと、

帰るや南欧 藍濃く空を、  
親知の使命を もたらし来り、  
歡喜を おさうの 心は満ち、

② 櫻は烟霞、精萃よ、さらば、  
春陸の

一 櫻は烟霞、  
春陸の  
舟餘三次、  
廣重描ける、  
常にか萬重の、  
政卿は遠く、  
盟邦 任節よ、  
在こやうなれや、

③ 六百餘年の いはし、  
大いぬ、日本の存在 所よ、  
傷 (いぼれ) またイタリヤ人土、

東運の 相和、この日の 姿、  
歎はく 銘せよ 好意の 胸よ。

④ 東運と 南欧、力を合はせ、  
平和を 築き、  
全團 こころ、  
イタリヤ 萬歳、  
送らぬ 盟和、イタリヤ 任節。

拝読。益り俱勝と存上ります。

別紙、イタリヤ使節を送るは、多分内地の一行の  
難き事なりとの事、イタリヤから 音譯つて、  
送らるる、  
こと、  
これを 貴下の 所就友、イタリヤ 諸文よ 長和も 示  
し、下され 故送るる、イタリヤ 諸文よ 長和も 示  
念に 存上ります。イタリヤ 大佐 破の ミジイ、  
口か 陽の 程 迄、下は、  
ルハ、  
高は 在、  
送らるる、  
おひ 頌 迄、  
伊 吉

1938  
伊 吉  
伊 吉

伊 吉

仙臺市本荒町二十一

土井林吉  
(晩翠)